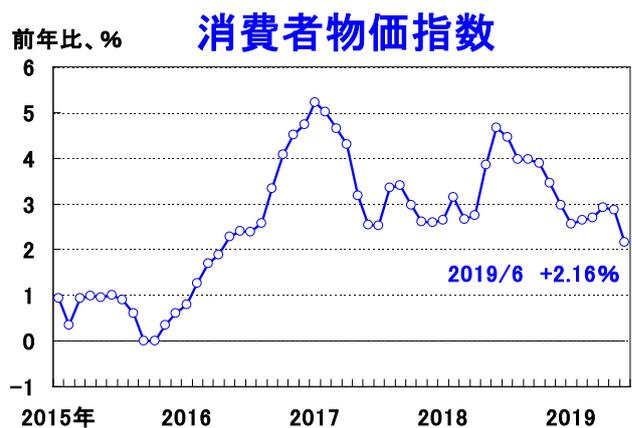
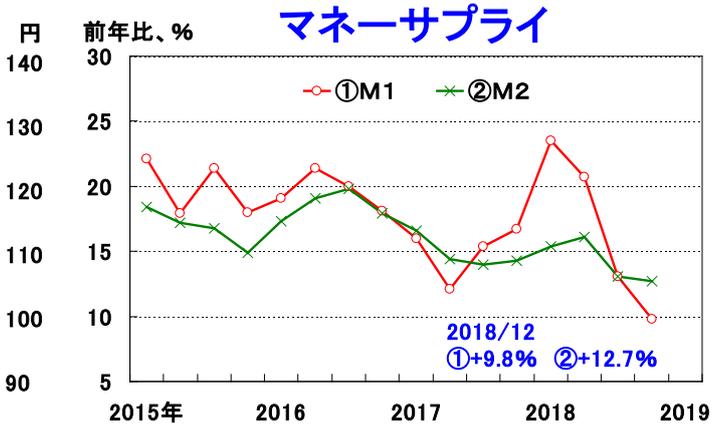
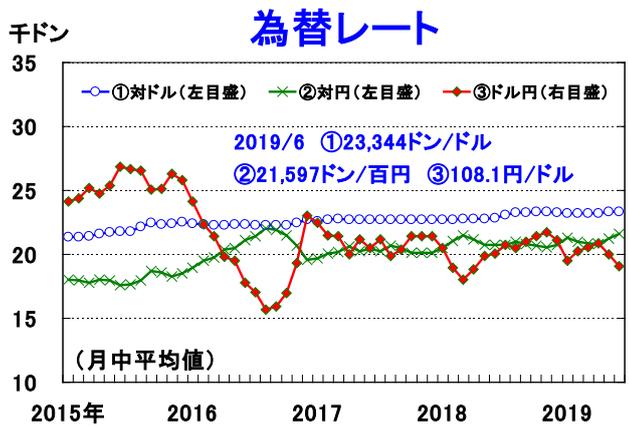
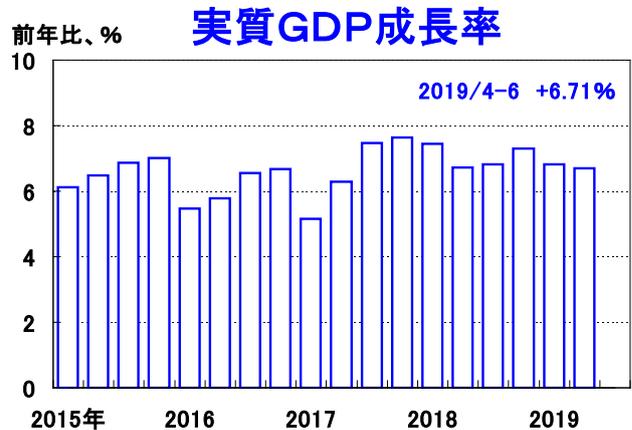
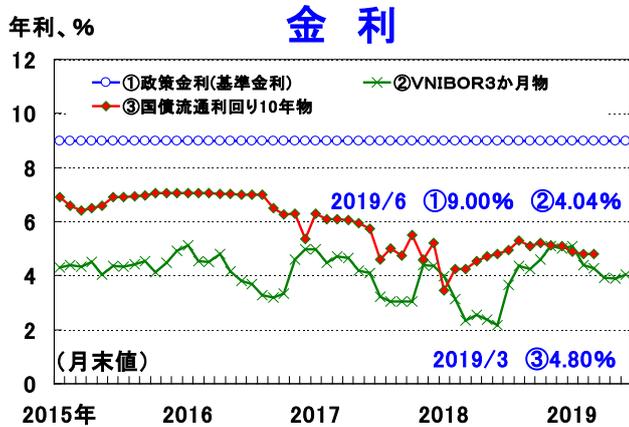


グラフで見るベトナム経済 2019年7月号(No. 114)

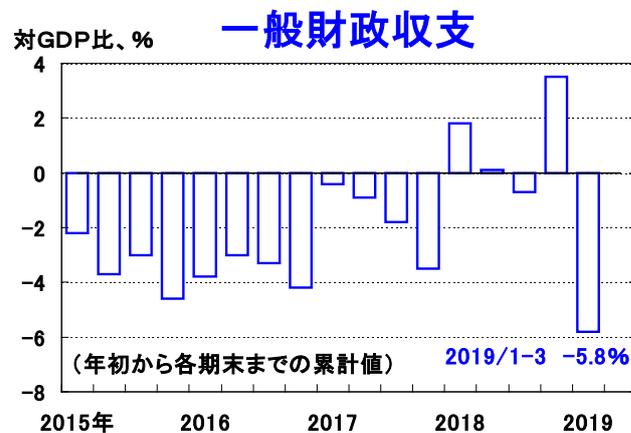
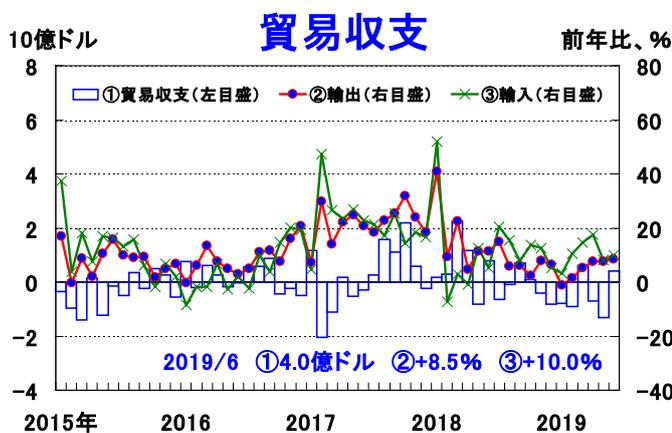
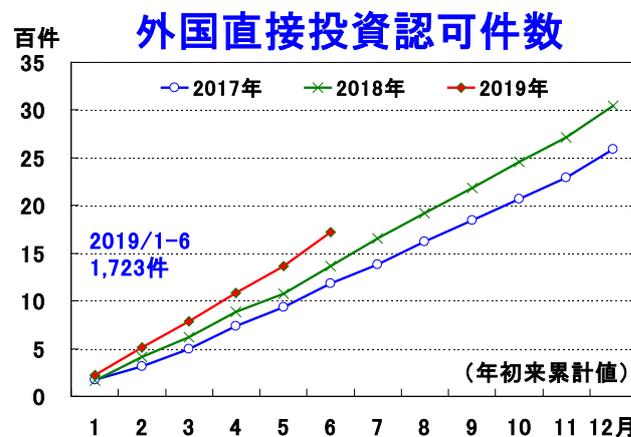
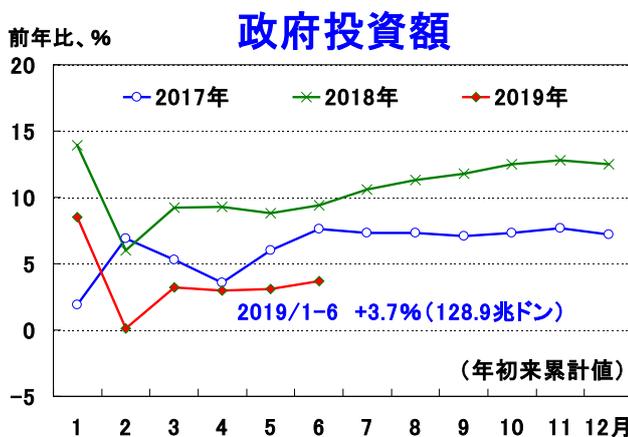
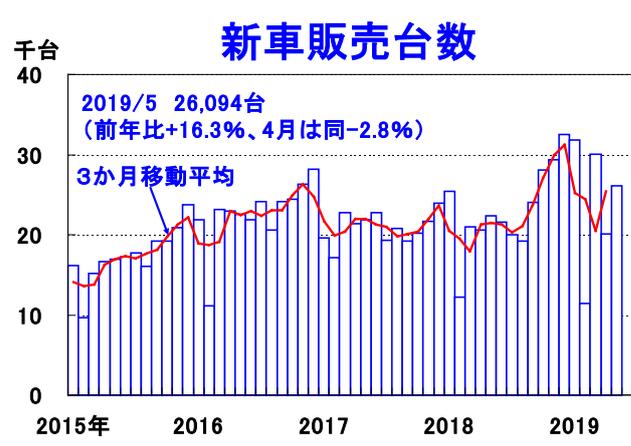
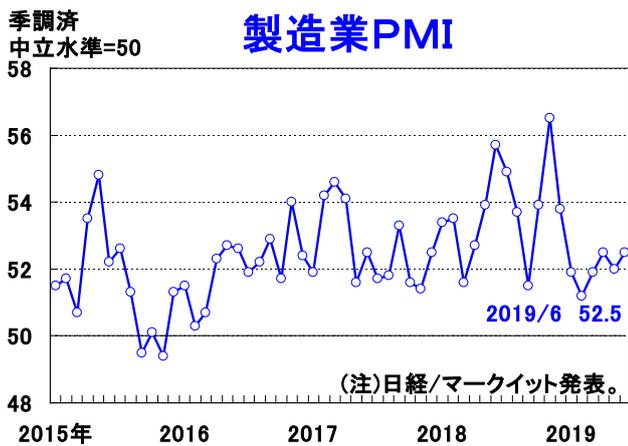
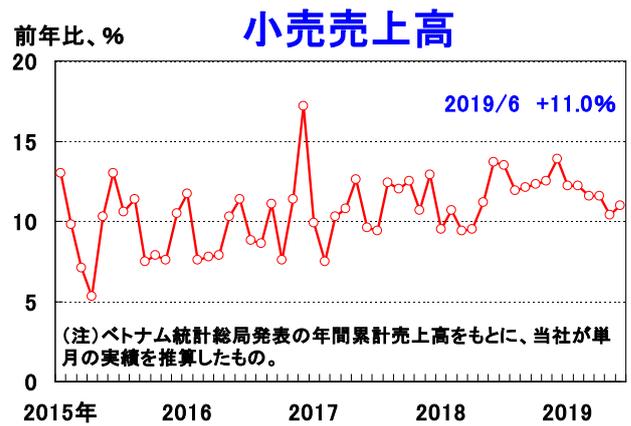
2019年4～6月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+6.71%(推定値、前期は同+6.82%)と、成長率が2四半期連続で低下した。鉱工業・建設業(1～3月期:前年比+8.68%→4～6月期:同+9.14%)とサービス業(1～3月期:同+6.50%→4～6月期:同+6.85%)がいずれも増勢を強めた一方、農林水産業(1～3月期:同+2.81%→4～6月期:同+2.19%)が減速した。一方、直近の月次指標をみると、6月の輸出は前年比+8.5%と11か月ぶりの高い伸びとなり、同月の小売売上高も同+11.0%と6か月ぶりに伸びを高めた。



【今月のトピック:EUとベトナムがFTAに調印】 6月30日に、EU(欧州連合)とベトナムは自由貿易協定(FTA)に調印した。近年、EUは日本やカナダ、シンガポールとFTAを締結してきた。ベトナムはEUとFTAを締結するアジア初の新興国となる。協定の発効は、欧州議会による承認手続き後となる。EU内には、ベトナムの人権問題を懸念する声がある。こうした懸念に対し、ベトナムは2019年にILO(国際労働機関)の団結権等の条約を批准するなど、対応を進めてきた。今回のFTAは、最終的に双方の関税の99%を撤廃することを目指しており、ベトナム経済に多大な恩恵をもたらすことが期待される。

(出所) ベトナム国家銀行(SBV)、ベトナム統計総局(GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。